

## 第3回北薩地域振興の取組方針策定有識者委員会 議事の要点

### 1 日時

平成30年12月19日（水）14時～15時30分

### 2 場所

北薩地域振興局本庁舎 第5会議室(会議室棟3階)

### 3 出席者

#### (1) 有識者委員（11名）

山本委員，竹原委員，來仙委員，今別府委員，跡上委員，永田委員，大野委員，松木委員，南原委員，京田委員，奈良迫委員

#### (2) 県(北薩地域振興局)（16名）

局長，総務企画部長，農林水産部長，建設部長，総務企画部（総務企画課長，総務企画課地域振興係長），保健福祉環境部（衛生・環境課長，地域保健福祉課長，健康企画課課長補佐），農林水産部（農村整備課長，林務水産課長，林務水産課出水市駐在参事，農政普及課技術補佐），建設部（土木建築課長，河川港湾課長），北薩教育事務所総務課長

#### (3) オブザーバー出席 中村県議会議員

### 4 北薩地域振興局大竹局長あいさつ

- ・ 県では本年3月，概ね10年後を見据えた中長期的な観点から，鹿児島を目指す姿や施策展開の基本方向などを明らかにする「かごしま未来創造ビジョン」を策定
- ・ ビジョンの策定を受け，北薩地域においても，地域の課題やポテンシャル，分野別の取組方針などを示す「北薩地域振興の取組方針」を策定する。
- ・ 取組方針の策定にあたり，地域の有識者から助言を得るため，委員会を開催する。1回目は7月2日，2回目は10月22日に開催した。今回の3回目で終了することとなる。
- ・ 今回は取組方針の事務局案を示すので，御意見を賜りたい。

## 5 議事（大竹局長は座長席へ移動）

- (1) 北薩地域振興の取組方針（案）説明（岩元総務企画課長）  
資料を下記の2種類配布し、説明は「②」により行う。

- ① 北薩地域振興の取組方針（案）
- ② 北薩地域振興の取組方針（案）（右上に「参考」と記載）

### (2) 質疑

#### 【京田委員】

- ・ P 1 0 下から6行目、「魚料理」を「地元料理」に修正していただきたい。

#### 【今別府委員】

- ・ P 1 5 上から13～14行目、川内港について。川内港は貨物量も少しづつ伸びており、税関・検疫・出入国もできるので、大型のクルーズ船でなくても良いので、小さな船でももっと頻繁に入港できるよう、川内港の利活用について、もう少し書けないか。  
中国から来る場合は、距離的・時間的に川内港のほうが鹿児島港より使い勝手が良い。港湾計画の改定作業が県・市においてなされているが、港湾の整備・活用についてお願いしたい。
- ・ 医療について、在宅医療、中でも「看取り」をどこでするのかという事が大きな問題になっている。長寿社会となり、入院期間も長期化する中で、病院での看取りが進むと、病院での重篤患者の受入が困難になってくるという懸念も生じる。家庭での看取りとなると、それも簡単には進まない。取組方針（案）には、地域包括ケアの推進ということで、医療と介護の連携した取組と記載があるが、在宅医療と看取りの問題にどのように取り組んでいくのか、記載する必要もあるのではないか。

#### 【南原委員】

- ・ P 1 5 の「肥薩おれんじ鉄道の維持存続」の記載について、自分自身は乗車したことはないが、この鉄道は風光明媚な海岸線を走ることが魅力であるので、P 1 0（6）「風光明媚な海岸線」や（7）「県境を越えた交流」など、他の場所にも記載できるのではないか。
- ・ 沿線には多くの企業があると思う。そのような所にチラシを配布し鉄道の利用を呼びかけるなどして、利用促進を図ってほしい。

#### 【奈良迫委員】

- ・ 阿久根市の人口が減っている。新幹線の駅がないこともあるが、西回り自動車道の延伸が、阿久根が「通過点」になってしまうのではないかと危惧される。外から人を呼びこむことをしないと厳しい。広域観光ルートの設定など、力を注いでほしい。
- ・ グリーンツーリズム・農家民泊について、管内の状況でいえば、出水は単独で受入体制を整えているが、出水市以外の市町は南さつま市にある団体が受入を引き受けている。このため、修学旅行など大人数の受入の申し込みがあったときに、出水市で受けきれない分を阿久根市やさつま町で受け入れてもらおうとしても、受入体制が異なることから、結果的に希望に添えない結果になり、修学旅行が北薩から逃げてしまうことになる。農村振興の観点からも、交流人口の増加は大切であることから、振興局の力添えで、グリーンツーリズムの受入体制の整備について記述していただきたい。

#### 【大竹局長】

- ・ 人口については、阿久根市の50.3%減をはじめ、管内の1/4強の減少が推計されている。出入国管理及び難民認定法が改正され、今後、運用面などを注視していく必要があると考えている。
- ・ グリーンツーリズムについては、実務的に対応させていただきたい。

#### 【跡上委員】

- ・ P 1 1に「地域文化活動の充実」の文言があり、良いと思う。阿久根には寺島宗則の育ったところで、生家跡には旧家の修復も進んでいる。これらの資源を生かした観光振興に努めていきたい。

#### 【大竹局長】

- ・ 地域振興推進事業等により、必要な取組について支援していきたい。

#### 【今別府委員】

- ・ 鹿児島市に県人口の1/3強が集中している。人口減少に歯止めをかけるためには、それぞれの地方の拠点となる地域を作らなければならない。分散が必要であり、県政の中で、地方の拠点づくりを考えてもらわなければならないと思う。霧島が発展したのは、工業技術センターなど県の施設をつくり、周辺に企業誘致・関連施設を集積したからだと思う。産業の拠点となるような施設を、北薩に集約するなど、拠点施設の分散について、県にお考えいただきたい。

#### 【大野委員】

- ・ 阿久根が人口は減っているけれど、おれんじ鉄道が3月から阿久根駅に40分停車することになり、商工会議所で連携し、PR活動を行うことになっている。また、映画「かぞくいろ」を見たという台湾からの観光客が阿久根を訪問するなどの動きもある。阿久根は小さい町だが、若い人たちの声が届きやすいという利点もある。子どもたちに阿久根は暮らしやすい街ということを伝えていく必要がある。地域には良いものがいっぱいあるので、「人づくり」をしながら、まちづくりをやっていきたい。

#### 【山本委員】

- ・ P6の上から17行目「ユネスコに登録されている」を「ユネスコの無形文化遺産に登録されている」と修正していただきたい。

#### 【永田委員】

- ・ P14に「排出事業者における処理責任」と記載されているが、近くに養豚施設があるのだが、臭いがひどい。糞尿を垂れ流しているのではないかという人もいる。
- ・ P19の畜産の項目の中で、臭い対策などの廃棄物対策も記載することはできないか。

#### 【今別府委員】

- ・ 旧川内市は川内川から上水道を取水しているが、養豚場の糞尿処理にたくさんの薬品が使われており、そのせいで川内川の魚が減ったのではないかととも言われている。
- ・ 下流では飲料水に使っている人もいるんだよと上流の人に意識してもらいたい。農業用水、これは市町をまたがる広域的な問題であり、指導や廃棄物の処理方法の開発とか管理のあり方など、県において検討いただきたい。

#### 【來仙委員】

- ・ 看取りは医療従事者にとっては重い問題。高齢者が死ぬことを皆で見守るということは、大変なエネルギーを要する。最終的に死亡診断書を書くのは医者であり、その労力をいかに軽減するかが課題になっている。
- ・ 自宅で看取りたい家族が訪問介護等を利用して、死の間際でぎりぎりでも苦しめられると病院でということでは救急車を呼ぶ事があるが、ご自

宅でも大丈夫だという医療・看護・介護を施すかが命題である。

- ・ 出水郡医師会のHP「I N A ネット」には、ご自宅で安心して死んでいけるための安心・安全な医療の供給の仕方を載せている。ご自宅でご思っていた方が、ぎりぎりでも病院を選ぶのは仕方ないと思うが、施設やご自宅でも十分可能であるということを知ってほしい。

#### 【大竹局長】

- ・ 先ほどの今別府委員の御意見も踏まえ、看取りについて何らかの記載ができるのか、検討させていただきたい。

#### 【竹原委員】

- ・ 素晴らしい取組方針ができるのだと思う。住民みんなに浸透するよう、周知をしていただきたい。
- ・ それぞれの市町だけでなく、地域として取り組み、みんなで考えていく取り組みができればと思う。

#### 【松木委員】

- ・ 農家民泊に海外から来ているので、海外からの誘客について、農家民泊についても記載してほしい。

#### 【中村県議】

- ・ 地域の有識者の方が集まり、様々な観点から意見をいただき、大変参考になった。
- ・ 県議会としても、この取組方針が実現できるよう、県と一体となって進めていきたい。

#### 【大竹局長】

- ・ 人手不足時代がやってきている。解消するために様々な方策をつくさなければならないが、高校生の県外就職率は30年前とほとんど変わっていない。ここを大きく変えていかないと、地域の活性化にはつなげていかない。
- ・ 取組方針については、極力委員の皆様の御意見を反映できればと考えている。
- ・ 今回で委員会は最後となるので、文言の修正については、座長に一任させていただきたい。(了)